

平成 30 年（2018 年）年頭のご挨拶

「妻有のあすへ」 新潟県議会議員 尾身孝昭

新しい年を皆様お揃いでお迎えのこととお喜び致します。

平成もあの小渕官房長官(当時)の『平成』(地平天成) 会見から早や 30 年、来年の平成 31 年 4 月 30 日には天皇陛下が退位され(200 年ぶり)、5 月 1 日からは 248 番目の新しい元号がスタートします。どのような年号になるのか興味の湧くところです。退位後に陛下は「上皇陛下」、皇后さまは「上皇后陛下」となられます。

昨年は 7 月の真夏日から一転して 8 月から秋にかけの天候不順で稲作にとりまして山間地では収穫も出来なかった所もあったと聞き、管内の一等級米比率も十日町市は 75.5、津南町は 56.0 と厳しい結果が出ました。

J A 十日町は十日町産魚沼コシヒカリを「米屋五郎兵衛」名（中里地域桔梗原地内の村山五郎兵衛さんが清津川から初めて揚水し開田した事から名前を付けたと聞きました）で新たにブランドデビューし、川西地域上野地内に雪を使った利雪型低温倉庫と最新型精米工場を建設し、更なる十日町産魚沼コシヒカリの販路拡大を進めております。

本年から国の稲作生産調整（減反）が廃止されますが、主食である米の安定供給は国家の最も基本的な責務であり、中山間地域小規模農家を抱える当地域に於いては国土の保全・災害防止など川上の集落存続維持と共に新しい農業政策に向け政治的配慮が重要になってきます。

観光庁は官民一体で進める日本版DMO（観光により地方創生に取り組む組織）に「雪国観光圏」（十日町市・津南町・魚沼市・南魚沼市・湯沢町・群馬県みなかみ市・長野県栄村）を選定し、2020 年には九回目のdestinationキャンペーンが新潟県で開催される事に決まり、本年第七回大地の芸術祭の開催も合わせインバウンド（訪日誘客）の加速も加えて地元の良さを発信する良い機会となります。

東京五輪の聖火台に新潟県唯一の国宝「火焰型土器」が採用される様に活動しております。

少子化の進む中、昨年県立高校の将来構想が発表されその中で、一学年の適正規模を 4 から 8 学級としておりますが、あえて小規模であることが教育効果を高める学校についても道を開いており、基本的には「県外の生徒も学びたくなる魅力的な学校づくりの推進」「地域との連携を深化させた人づくりの推進」など県教育委員会の将来構想に合わせた特色ある個性を伸ばす高校にすべく皆様とご一緒に提案してまいります。

本年 3 月で川西高校は閉校しますが、併設していた小出特別支援学校川西分校を 4 月から新たに本校化し「新潟県立川西高等特別支援学校」を設置します。

本年4月に四大では県内18番目の新潟食料農業大学が開学し若者の県外流出の防止に努めます。

新十日町病院は、平成32年に県立では初の地下駐車場を整備した病院の完成を予定し、魚沼基幹病院・松代病院・津南病院・上村病院をはじめ開業医・診療所との連携を推進してまいります。また、隣接地に「新潟県立十日町病院附属看護専門学校」（仮称）が同年開学予定されており地域の看護師不足に対応してまいります。

上越魚沼地域振興快速道路は、昨年11月25日に八箇峠トンネル（長里から野田間6.6km）が供用開始されましたが、柏崎刈羽原子力発電所からの避難路として命をつなぐ幹線道路として今後十日町インターを含めた十日町道路（11km）の整備と、国道353号線十二峠新トンネル開削に向けての活動を推進してまいります。昨年、野中当間バイパスのトンネルも貫通し、当間高原リゾートベルナティオへのアクセスもトンネル効果が期待されます。また、国道117号津南地内の新灰雨トンネルもいよいよ地権者の皆様に用地のお願いが始まります。

昨年の漢字は「北」でしたが、二番目は「政」で本県においても衆議院選挙の結果と合わせ政治の在り方と共に政治家の矜持が問われてまいります。

糸魚川大火から一年が経過しました、「火の用心」をお願いします。

本年も皆様にとりまして元気に楽しく輝く一年となりますことを御祈念申し上げます。